

トレモロ

ひとしきり強く吹いていた南風は
はたりと止んでいた

もう日は傾いていたが
なおも暖かく身体に染み込んでくる
そして、忘れ去っていた人の温もりさえ

どこからか聞こえてくるカナリヤの声は
堰き止められていた想いを
幸福とも哀しみとも見える波紋と交差させ
目の奥に溢れさせる

諦めとともに当然と思われた毎日に
誰が、いつ、^{あした}朝と^{ゆうべ}夕を与えたのか
至福と幻滅の繰り返しを
そして、2つが同時に混じりあう静謐を

何もないと思われた毎日に
誰が、いつ、絵の具を置いたのか
抱えきれぬほどの選択肢を
そして、パレットと筆を

子供達の声が呼んでいる
さあ、私も描きましょう
様々な色を筆に乗せて

(2000.1.2)